

## 部落解放研究所おしらせ—第三〇回研究所総会開く

去る七月一五日〜一六日、部落解放研究所の第三〇回総会と第一一回全国部落解放研究者集会在奈良市あやめ池の桃山荘で開かれ、三〇〇名に近い参加者があった。

第三〇回総会は、村越末男・部落解放研究所理事長の司会で始まり、書記の任命の後、高橋正人・部落解放同盟大阪府連合会書記長、濱本啓義・大阪府教育委員会同和教育企画室長、松田芳機・大阪市民局同和对策部長から、それぞれ来賓のあいさつがあった。

ついで、友永健三・部落解放研究所事務局長から一九八八年度事業報告・決算報告、一九八九年度事業計画の具体化・予算案等、一一の議案が一括して提案され、全会一致で採択された。とくに第九号議案「国際人権大学」(仮称)構想については、七月一日に準備室が開設されたことが

報告され、室長となった鈴木祥蔵副理事長からあいさつがあった。

第一一回全国部落解放研究者集会の全体会議(第一日目)では、研究所創立二〇周年記念事業として編纂されていた『部落解放史』全三巻が刊行されるのを機に、その発刊の意義を問う記念のシンポジウム「部落史研究の到達点と課題」が開催された。

同シンポジウムは『部落解放史』の執筆者のうち、古代⇨上田正昭(京都大学)、中世⇨横井清(桃山学院大学)、近世⇨寺木伸明(桃山学院大学)、近代⇨秋定嘉和(池坊短期大学)、戦後⇨渡辺俊雄(部落解放研究所)、現代⇨友永健三(部落解放研究所)の六氏から、それぞれ内容の紹介とその意義等について報告があった。

また同日夜と翌日の午前中は、四つの課題別会議にわかれて報告と討論を行い、さ

らに最後に再び全体会議をもって松本健男弁護士から狭山第二次再審についての特別報告、大賀正行・部落解放研究所研究部長からの集會まとめを受けて閉会した。

今回の総会・研究者集会には、参議院選挙中などの多忙な時期にもかかわらず、昨年と同様数多くの参加者を得た。『部落解放史』発刊に対する関心も大変強く、広く関東や九州からの参加者もあり、高い定価にもかかわらず、飛ぶようにセットで売れていた。

また課題別会議の報告者も、庭山英雄(香川大学)、藤枝淳子(京都精華大学)、内野正幸(筑波大学)、各氏など初めての方々も多く、充実したものとなったのが特徴だった。